

第 9 回 県政運営評価戦略会議 会議録

- 1 日時 平成26年3月19日(水) 13:30～14:25
- 2 会場 県庁4階 403会議室
- 3 出席者 委員 県
阿部 頼孝(敬称略, 以下同じ) 犬伏 秀之 監察局長
石田 和之 板東 俊夫 政策調査幹
井関 佳穂理 中村 章人 監察局次長
坂本 真理子 河野 功 評価検査課長
佐和 良佳
田村 耕一
土佐 和恵
南波 浩史
橋本 延子
浜口 伸一
濱口 英代
福島 明子
森本 長生

ほか

(会議次第)

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 徳島県総合計画審議会への提言に対する回答について
 - (2) 徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会への提言に対する回答について
 - (3) 平成26年度県政運営評価戦略会議の運営について
- 3 閉 会

(議事項目と概要)

- 1 監察局長挨拶
- 2 徳島県総合計画審議会への提言に対する回答の説明(資料1)
政策調査幹より, 資料に基づき説明。
- 3 徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会への提言に対する回答の説明(資料2)
評価検査課長より, 資料に基づき説明。
- 3 平成26年度県政運営評価戦略会議の運営について(資料3) (以下, 概要は別に掲げる)

■ 監察局長挨拶

(監察局長)

監察局長の犬伏でございます。

本日は、第9回県政運営評価戦略会議を開催いたしましたところ、会長をはじめ、委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、昨年夏には猛暑の中、「いけるよ！徳島・行動計画」に位置付けられた全ての施策、744項目について、精力的に評価を行っていただきましたことに、改めて、御礼申し上げます。

その評価結果につきましては、昨年11月18日付けで「徳島県総合計画審議会」へ提言を行ったところであります。

また、昨年11月18日には、「徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会」の運営に関する評価を行っていただき、その結果を本年1月17日、委員長あて提言をさせていただきます。

本日は、これらの2つの提言に対する審議会等からの回答につきまして、報告をさせていただきます。

また、来年度の県政運営評価戦略会議の運営についても、御論議いただければと考えております。

皆様には、忌憚のない、御意見、御提言を賜りますよう、どうぞよろしくお願いいたします

■ 質疑

(会長)

今年度は、これまで8回の県政運営評価戦略会議を開催してきました。

第1回から第7回までの会議は、県政の運営指針である「いけるよ！徳島・行動計画」について、7つの基本目標ごとに評価を行い、第8回会議では、徳島県立工業技術センター外部評価委員会の運営に関する評価、いわゆる評価機関の運営評価を行ったところです。

今回の会議では、「徳島県総合計画審議会」および「徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会」からの報告を受けるとともに、これまでの当戦略会議の運営状況を踏まえまして、平成26年度の戦略会議の運営について検討したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、徳島県総合計画審議会・事務局である総合政策課から政策調査幹に出席していただいておりますので、「徳島県総合計画審議会への提言」に対する回答についての報告をお願いいたします。

(政策調査幹)

～資料1の説明～

(会長)

ありがとうございました。

ただ今の報告に関して、何か、ご質問等はございますか。

ここで、政策調査幹は退席いたします。

ご出席いただき、ありがとうございました。

報告の2点目は、今年の1月に行った「徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会への提言」に対する回答について、その対応状況について、事務局より説明をお願いします。

(評価検査課長)

～資料2の説明～

(会長)

続きまして、議事(3)の「平成26年度県政運営評価戦略会議の運営について」に移りたいと思います。まずは、事務局から説明をお願いします。

(評価検査課長)

今回の会議を開催するにあたりまして、委員の皆様にも、来年度の県政運営評価戦略会議の運営について何かご意見がないかおたずねしたところ、2点ほど検討してはどうかという提案を頂いております。

資料3をご覧ください。

まず、会議の進め方についてであります。これまで、各部局より主要施策の説明を受けたのち、委員の皆様で協議していただいておりますが、各部局からの説明については、止めてもよいのではないかとということ。

また、評価方法について、各事業ごとの評価(AからD)に加え、例えば、基本目標ごとに総合的な評価ができないかという御提言をいただいております。

(会長)

事務局から説明していただきましたが、これは私が提案したものですので、趣旨を説明させていただきたいと思っております。

現在、「いけるよ!徳島・行動計画」にある744の事業にA・B・C・Dで評価をしております。その際の評価の視点は、進捗状況の評価が主になっていると思っております。これをやめるということではなく、これに加えてということになります。行動計画には7つの基本目標がありますので、その基本目標ごとに、例えば基本目標1であれば、「にぎわい・感動とくしま」としてうまくいっているのかというところの評価をしてはどうかとい

うことです。

このようなことを提案した理由としましては、それぞれの事業の評価がA・Bばかりであっても、しばしば「本当に県政はそんなに良いのか」という声があるためです。事業を個別に評価していくと、目標をクリアしており、その事業が高い評価となるのは正しいことと思います。しかし、「にぎわい・感動とくしま」として欠けている事業があるかもしれません。計画に載っていないことを「こういうことが不足している」と評価するには、上の部分の評価が必要になるのかなと考えました。また、各事業の数値目標についても、その数値目標が果たして妥当なのかどうかという意見がありました。数値目標の立て方そのものも含めて、その妥当性を基本目標ごとの評価の中で言えるのかなと思います。

「いけるよ！徳島・行動計画」そのものの評価というところにも、これによって踏み込めるのではないかと思います。我々は「県政運営評価戦略会議」という大きな名前を頂いておりますので、計画そのものについて、どうなのかという評価をしてもいいのではないかと思います。その際に、県政全体をひとつにまとめてとなると大き過ぎるので、7つの基本目標ごとに評価をしていくということでやってみたいと考えています。

それに関連して、限られた時間の中で新しいことをするために、今まで行ってきた各部署からの主要施策の説明を省くということを提案しています。

(A委員)

総合的に捉えたときに、この分野はどうかということの評価していくというのが、会長の御提案かと思えます。それをするに当たっては、評価基準が必要となってくると思えます。今まで行ってきた事業ごとの評価では、数値目標が設定されており、それをもとに評価をしてきました。総合的に見て、意見を出し合うことは必要と思えますが、それを行うに当たって、AやBといった評価を付けることができるかというのは、難しい問題になると思えます。分野ごとに意見をまとめて、それを評価として残すということは、必要なことと思えます。

(会長)

仰るとおりだと思います。A評価の事業が多いので、この分野はA評価というやり方では、今までと変わりません。そういったことは考えておらず、7つの基本目標ごとに見たときに、「この基本目標はこの程度だ」という意見を出していきたいと思っています。そのときに、AやBといった評価を付けることは考えておらず、コメントとして、「こういうことが足りない」「このような観点を追加するべき」ということを出していきたいと考えております。我々で行動計画を読み込んで、理解をして、評価をすればよいのかなと思いますし、もしも我々が理解できない内容があったとすれば、この計画そのものが説明不足であるという評価もできると思えます。これまで、事業ごとに、その内容が記載された「評価シート」を評価の対象としていましたが、その「評価シート」が評価の資料にもなるかと思えます。

(B委員)

各部局からの説明は、専門的な知識をもっていない分野の場合に、わかりやすく良かったと思いますので、それを省くのは避けてもらいたいと思います。

全く説明がないのは、やりにくいかもしれないので、何らかの形で、導入の説明をしてもらった方が良くもありません。

(評価検査課長)

今までの説明は、全体的な話を中心だったと思います。あまり評価と結びついてなかった部分もありますので、評価に繋がるような導入にしていければよいと思います。

(C委員)

総合的な評価ということについて、そもそも評価できるのかという本質的な問題が回ると思います。私的な価値観のレベルではなく、第三者に説明ができるかという点から、744の事業について、担当部局が設定した目標値をもとに評価をしてきました。それはそれで、意義のあることだったと思います。それとともに、744事業の分け方や数値目標の設定の仕方が妥当であるかという点も考えて、評価する手順そのものも常に進化していかなければならないと思います。ですが、基準がないと点数を付けるような評価は難しいので、総合的な評価に関しては、コメントをつける形の評価が良いと思います。

(会長)

総合的な評価は、点数などは付けずに、意見を出すという形で考えています。

(監察局長)

昨年、「観光立県とくしま」の評価を行った際に、D委員から意見がありました。個々の事業についてはA・B・Cの評価は問題ないが、「観光立県とくしま」全体としてできているかというところ、不足しているところがあると思うので、筆頭する項目にC評価を付けて叱咤激励をしたいという意見でした。

今回、会長が仰っている意見も同じようなことだと思います。A・B・Cの積み重ねには意味があるものの、全体として評価したときには、不足しているところもあり得ることだと思います。

個々の事業の評価を終えた後で、基本目標全体に対して、意見をまとめて、総合計画審議会への提言にも載せていくというご意見かと思います。

また、各部局からの主要施策の説明については、各部局の副部長が説明しています。今までのような全体的なことについての説明では、実際に評価する内容と乖離してしまうことがありました。今後は、評価につながるような説明になるように検討していきたいと思います。

例えば、「我々の部局はこういう事業に重点的に取り組んできたが、その結果、この事業については、こういう成果が上がったが、その一方で、こう頑張ったが、こういうところが不足しており課題として認識している」とか、各部局の重点取組と評価とが繋がるよう副部長には説明させたいと思います。

(E委員)

案では、744の事業の評価を行った後に、総合的な評価を行うこととなっておりますが、総合的な評価をしていくうちに、個々の事業の評価が変わってくることもあるのではないかと思います。そういったことを考えると、順番はこの案のとおりでよいのでしょうか。

(会長)

評価の順番については、今後検討していきたいと思います。

(監察局長)

どちらにしても出戻りとなることはあるかと思います。どちらを先にするべきか、考えていきたいと思います。

(A委員)

これまで、744の事業の評価を行ってきましたが、この会議に出席している人以外は、どのように評価をしているのかを知らないと思います。

単に数字だけを見て、判断しているのではなく、たたき台として評価私案を作成した後、気になるところについては、担当部局の話を聞いた上で、議論をして、評価しています。

総合計画審議会や県議会などで、評価の仕方について議論になった際には、そのようなことを伝えていっていただければと思います。

(監察局長)

今年度から、行動計画が議会の議決事項になりました。全議員勉強会では、この会議で評価をしたことについて、説明させていただきました。また、会議の議論については、議事録を作成し、県のホームページで公開しております。

(会長)

それでは、来年度の会議運営については、このような形で検討させていただきたいと思います。

続きまして、事務局からなにかあればご説明をお願いします。

(評価検査課長)

先ほども申し上げましたように、会議録については、会長に確認していただき、県のホームページで公表したいと考えております。

(会長)

以上をもちまして、本日の議事を終わります。それでは、マイクを事務局にお返しします。